



一学期も残すところ3週間、みんながんばっています

全会津中体連が駅伝を除いて終了し、陸上競技で22名、卓球と剣道の個人戦で県大会出場を決めることができました。陸上競技はいわき市で7月4～6日、剣道は白河市で7月22～24日、卓球は同日にいわき市で開催されます。応援をよろしくお願いいたします。

1学期も大詰めとなってきました。御田植祭、立志式など、夏休み前の行事が数多く予定されていますが、安全で楽しく充実した休みとなるよう事前指導を徹底して参ります。

新体力テスト 6月29日(金)

震災以降、福島県の児童生徒の運動能力や体力は全国的に見て低いレベルにありましたが、本校は、上級生を中心に比較的高い結果(昨年度)が出ており、朝の運動や各部活動の練習の成果が見られます。



むし歯や肥満傾向においては、まだ課題が見られ、特にむし歯の治療率においては昨年度も大きな課題でした。夏休みを利用して、治療に専念できるようご配慮をお願いします。

特別支援教育について

「十人十色」といわれるように、人間は一人ひとり違った特性を持っており、それを含めて「個性」と呼ぶことがあります。学校では、一人ひとりの個性を把握して、個に応じた支援に心がけながら教育活動を行っています。

「特別支援教育」とは、個に応じた支援を進める上で、特別な配慮を必要とする生徒に関する教育をさします。子どもの成長には一人ひとりに差があり、大きな集団で学ぶよりも個別や小集団で学ぶことで、その子が持つ力を伸ばしてあげられる場合があります。そのような生徒のために設置されるのが特別支援学級です。

通常の学級に在籍する生徒の中にも特別な支援を必要としている生徒がおり、可能な限り個に応

じた支援を行っています。通常の学級でできることには限界があります。

大切なことは、「本当にその子にあった個別の支援」を通常の学級ではどこまでできるのか、個別あるいは小集団による支援ではどのような力を伸ばすことができるのかを考えることです。そして、高等学校へ進学してから、あるいは社会に出てから、他の人たちと上手に関わりながら生活していくための学力やコミュニケーション力を身につける支援を、いつどのように行うのか考えることです。その判断を誤ると、将来困り感を持つのはその子自身であることを考える必要があると思います。

本校では、生徒の困り感に応じた特別な支援を行

うため、特別支援学級を2つ設置しています。

一つは主に学習面で特別な配慮をしている「けやき学級」、もう一つは主にコミュニケーション面で特別な配慮をしている「えんじゅ学級」で今

わたしと小鳥とすずと

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう、
地面(じべた)をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう、
たくさんのうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。

作 金子みすず [1903-1929]

年度新設されました。その他に通級指導教室とい

って、週に2時間だけ人との関わりや感情のコントロールの仕方を練習する「せきれい学級」も新設されました。本校では、以上のような生徒の困り感に応じた支援ができるような環境を整えています。

『特別支援学級に入級すると高校へ進学できない。』とか、『通常の学級に戻れない。』、『いつでも小集団で生活する。』といった誤解をされている声を聞くこともありますが、そのようなことはありません。通常学級での授業もあります。普通高校への進学も可能です。

夏休み中に面談の機会を設けてありますが、いつでも気軽にご相談ください。